

<レジリエンス認証を取得した団体の声>

	認証取得して良かったこと	社内、社外での変化等
<p>エネジン株式会社 http://www.enegene.co.jp/ *平成28年度第1回認証取得</p>	<p>① BCPを再構築できたことです。今回審査を受けてみて、初めて不備や考え至っていない点があることに気づくことができました。定義からして怪しい箇所があり、再度見直しをしました。また優先事業を一部入れ替えました。やはりコンサルタントの指導を受けたとはいえ、自分で策定したままでは、不十分であると感じました。</p> <p>② 形に表すことができたことです。「防災に力を入れている」「地震に強いLPガス」と言ったところで、第三者には上手く伝わりません。</p> <p>レジリエンス認証という形に表したことで、お客様や取引先が関心を寄せてくれ、説明できることはもちろん、社内でも意識の向上が図られました。特に「第一回」「業界初」というインパクトは大きかったと感じます。</p>	<p>社内では、防災に対する意識向上の他、これを事業に活かしていこうという動きも出てきました。HPや名刺にレジリエンス認証のマークを表記することは当然として、これをキッカケとした防災機器の販売提案を進めています。</p> <p>更には社外の関係各所と連携して、防災訓練指導やBCP簡易講座を実施して、お客様のレジリエンスに関するお役立ちを企画しています。モノ売りからコト売りへ進化していければ、と考えています。</p>
<p>大成建設株式会社 http://www.taisei.co.jp/ *平成28年度第1回認証取得</p>	<p>弊社はこの制度に早くから関心を寄せていたこともあって第1回に認証取得しました。全44団体の内の1社ですが大手ゼネコンとしては唯一で当時は社内外からいささか場違いな印象を持たれたのも事実です。認証取得の効果に関して費用対効果を持ち出して議論する風潮も多いと思われませんが、弊社の意思決定は、そうした枠内で行われたものではありません。この制度はやがてはデファクト化して認証取得していないことが奇異に感じられ社内外から説明を求められる時代が来るとの確信です。認証取得が当然となる時が来るとの読みには自信がありました。時が経過してそうした予測が現実化し先行取得のメリットを享受しつつある現状です。</p>	
<p>株式会社白謙蒲鉾店 http://www.shiraken.co.jp/ *平成28年度第1回認証取得</p>	<p>弊社で2014年2月に認証取得したISO22301:2012の規格要求事項と比較するとより具体的内容であり、目的や意図をすぐにつかむことができました。また、弊社が重視している経営者の積極的参画も随所に要求されており、活動してきたことの有効性を改めて確認することができました。</p>	<p>BCMSを組織文化に組み入れることを目的に東日本大震災の被災経験を教訓として推進してきた活動の新たな証となり、社内において方向性間違いがないことを認識できたことです。また、津波浸水地域では人手不足が問題となっておりますが、今年度、石巻地域の全新入社員が津波浸水エリア外居住者であり、震災後の防災や事業継続活動を家族等やネットなどから見聞きし、安全に配慮されており、長く就業できることを選考理由とした者が半数以上にのぼっていることです。社外での変化としましては認証後にBCMの取り組みに対する公表依頼が増加しており、BCM推進企業様との新たな交流機会が創出されていることです。</p>
<p>株式会社橋本店 http://www.hashimototen.co.jp/ *平成28年度第1回認証取得</p>	<p>当社は間もなく創業140周年を迎える宮城県仙台市に本社を置く地元建設会社です。「レジリエンス認証」ということばが何より気に入っています。防災用語として、定義されつつある言葉ですが、英語では“resilience(名詞形)”で、一般的には「(困難に)負けない」という意味を指しており、「負けない会社」づくりを目指す道しるべのように思っています。認証前までもBCPには取り組んでいましたが、レジリエンス認証取得の為に本当の事業継続について学ぶことができました。</p>	<p>事業継続を経営方針にすることで、会社の方針が明確になってきたと実感しています。東日本大震災で体験した経験から始まったBCP導入、そして「レジリエンス認証」取得を周囲にも広げて行きたいと思います。</p>

	認証取得して良かったこと	社内、社外での変化等
<p>医療法人社団友愛会 http://yuai-hospital.jp/ *平成28年度第1回認証取得</p>	<p>認証審査のプロセスが、現状認識と課題整理のいい機会となりました。加えて、第三者である専門家に評価いただいたことで、事業継続の取り組みに自信が持てましたので、その後の推進力にも繋がっていると思います。また、「レジリエンス認証」が単なる書類の審査にとどまらず、役員との面接審査を要求していることが、組織へのさらなる動機づけという意味において、プラスに作用にしました。</p>	<p>認証取得によって、スタッフのモチベーションが高まったことは、確かな変化といえます。対外的な変化はまだ感じられてはいませんが、それは当法人のアピール不足が大きな要因かもしれません。今後は、事業継続の取り組みが確かなものであることの証明として、この「レジリエンス認証」を積極的に発信していくと同時に、将来的には、この制度がデファクトスタンダードとなることを期待したいと思います。</p>
<p>株式会社ウェルシィ http://www.wellthy.co.jp/ *平成28年度第2回認証取得</p>	<p>①営業の説明の中で、「ISO22301」の取得(2013年5月)と共に「レジリエンス認証」の取得(2016年12月)について入れるようにしています。まだ認知度は高いとは言えませんが、内閣府がその取得を推進しているレジリエンス認証について既に当社が取得していることは評価されており、他社との差異化(地下水飲料化事業を展開する会社で初めての取得)に役立っています。</p> <p>②広報担当として、マスメディアの方や官庁の方、防災・減災関係者などにプレゼンする機会が多いのですが、その際必ずレジリエンス認証取得のことを説明します。信頼の証として捉えられることが多く大変助かっています。</p> <p>③レジリエンス認証取得後新聞2紙が取り上げてくれた他、三菱ケミカルホールディングスの社内報、对外資料等で紹介してもらいました。グループ内で初めて取得した企業として評価いただいております、取得して良かったと思います。</p>	<p>①広報担当者としてあらゆる機会を通じ、レジリエンス認証を伝えています。レジリエンス認証ってなんですかと言う質問はなく、徐々に社会に認知されてきた気がします。</p> <p>②営業部門もレジリエンス認証の取得をお客様に伝え、他社との差異化につなげています。</p> <p>③毎年4月に全社員を集めた決起大会が開催されます。今年は社長がその説明資料の中で、レジリエンス認証に触れ、社員に周知徹底しました。</p> <p>④三菱ケミカルホールディングスは、4月1日に防災・減災に関わる説明冊子を新たに発行しました。このようなことはグループとして初めてです。その中でも、レジリエンス認証について触れられました。グループ内の認知度は着実に上がっていますし、評価が高まっています。</p> <p>⑤防災に関する展示会に、レジリエンス認証取得企業としてパネリストとしての参加要請があったり、金融機関の広報誌で防災・減災の特集にインタビューを受けたり、種々メリットを享受しています。</p> <p>⑥レジリエンス認証の輪を更に広げるため、防災・減災に貢献している当社ユーザーにも何らかのメリット(例えば、レジリエンス認証取得企業の製品利用証等)が与えられれば、それらの企業からレジリエンス認証を目指す企業も現れ国土強靱化に寄与するのではないかと思います。</p>
<p>社会福祉法人海光会 http://kaikoukai.jp/ *平成28年度第2回認証取得</p>	<p>1. BCP再検証 認証取得に必要な資料の策定過程が、BCPを再検証する良いきっかけとなった。具体的には、最優先業務の棲み分け、ボトルネックを解決するために必要な対策などを新た落とし込んでいる。また、設備投資の根拠を固めることにもなり最終的な経営判断材料として非常に役に立った。</p> <p>2. 訓練の具現性向上 BCPを実行するために必要な訓練内容を基礎から応用へ引き上げながら、より具体的なロールプレイングができるようになった。例えば、トリアージ訓練、図上訓練、避難所運営(HUG)などを通じ、新たな課題の発見ができることで、ハード・ソフトの増強につながっている。</p>	<p>1. 社会福祉業界の認識・意識向上活動 未だ福祉施設の事業継続への取り組みは十分とは言えない状況があるため、まずは防災への認識を変えていく活動に協力していきたい。(2017年度は全国社会福祉法人経営者大会にて実施済み)認証の存在を広報する役目も果たし、業界のボトムアップを図るリーディングカンパニーを目指す。</p> <p>2. 自社組織内外の認識・意識 認証は、災害対策への認識共有手段となっている。具体的には、職員は福祉施設初という誇り、地域には認証取得レベルの施設であるという安心感を提供できている。</p>